

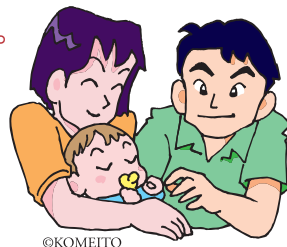
第3回定例会で総括質疑を行いました

1 少子化対策

Q. ①持続可能な行財政運営のために、人口ビジョンに合わせた財政の見通しをしっかりと示すべきでは。
A. ①人口データは、歳入面では納税義務者の推移、歳出面では社会保障経費の動向に大きく影響する。財政見通しについても、人口ビジョンを踏まえたもので示したい。

Q. ②不妊治療の上乗せ助成を中心に、中野区にあった支援をしっかりと検討すべきでは。
A. ②不妊治療は他の自治体において様々に取り組まれており、事業の実施状況や政策的な効果の情報収集を行うなど研究を進める。

ひとくちメモ 人口の変化は、公共施設の維持管理などへの影響、生産年齢人口の減少による地方財政への影響がある。区の出生率は23区で最下位のグループにあり、少子化対策は喫緊の課題である。



2 介護保険について

Q. ①介護度の軽度化を目指した介護予防の評価をしっかりとすべきでは。

A. ①介護度の改善率など、有効な評価項目を設定したい。

Q. ②事業者の成功報酬制度、区介護職員のインセンティブ制度を検討してはいかがか。

A. ②導入をしている区の実施状況を把握しながら、今後情報収集に努めていく。

ひとくちメモ 介護保険制度では、サービス支給により介護が重度化する傾向があることが指摘されている。重度化は保険料引き上げにつながる。

4 障害者施策

Q. ①手当には身体・知的障害の方に比べ、精神障害の手当が少ないのでは。

A. ①手当、医療費の助成など、各障害の特性に合った支援というものが必要であり、それぞれの制度が構築されている。

ひとくちメモ 現在は身体・知的・精神の3障害同一サービスという考え方が広がっている。区の障害者手当は、精神障害の手当がない。

5 熱中症対策

Q. ①熱中症指標計配布を地域と接点のない高齢者に、高齢者会館に来てもらうインセンティブに活用するなど検討してはいかがか。

A. ①熱中症予防グッズは、さまざま市販されているが、啓発効果、また、呼び寄せ効果、注意喚起効果などの観点で研究をしたい。

ひとくちメモ 熱中症を起こすことによる死亡は、夜間に多いことが明らかになり、コンクリートの住宅では外よりも室内の気温が高く、高齢者は危険な状態を気づきにくい傾向にあります。

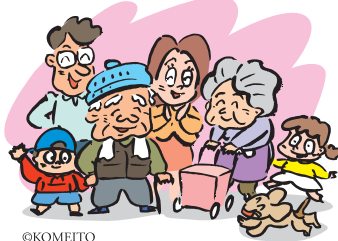


3 高齢者対策

Q. ①高齢者の居場所づくり推進とともに、サロン活動マップ作成を検討しては。またできるかぎり大きい字で、場所や時間をわかりやすくし、区民活動センター単位での作成を検討しては。

A. ①わかりやすいマップづくりを、社協と相談して推進する。

ひとくちメモ 高齢者の居場所づくりとして、中野区社会福祉協議会が行っている「まちなかサロン」のような活動が区全域で身近で行われている環境を作っていく必要がある。



木村広一の要望が実現！推進！

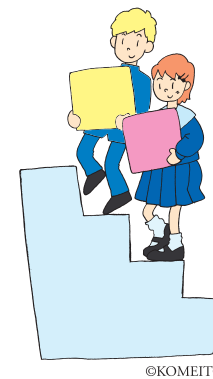
学習支援事業の拡充が実現！

今年度より生活困窮世帯の子どもへ学習の機会を提供する事業を実施。中学生の学習支援では、今年3月の募集では定員40名を超える応募がありました。

今回は、定員からもれた中学3年生30名に対し、高校受験直前対策として冬期学習の追加支援を実施いたします。

平成28年1月～2月に全12回実施、1回120分、国語・数学・英語を中心に、指導スタッフ1名対生徒2名の個別指導をします。

この機会を利用して、一人でも多くの受験生が希望校に進学してほしいです。



認可外保育施設保護者補助で負担が軽減！

やむを得ず認可外保育施設を利用する保護者の負担に対する補助を拡充し、負担の公平化を図りました。（毎月上限62,000円）これまで補助していた認証保育所に加え、今年度から認可外保育施設の補助も始まりました。

この補助制度を活用して認可外保育施設に気軽にお子さんを預ける方が増えています。

新・元気を出せ！商店街事業でイベント充実！

商店会等が担う組織基盤の強化やイベント、総合的に推進。鍋横商店街夏祭りなどの大規模なイベントへの補助を拡大し、イベントの活性化が推進されています。



↑鍋横夏祭りでは阿波踊りを先導

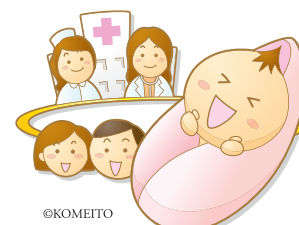
公明党が推進！

産後ケア事業など妊婦・出産・子育てトータルケアの充実

妊娠から子育てまでを切れ目なくサポートする「妊娠・出産・子育てトータルケア事業」が、10月からスタートしました。出産や育児への不安を解消し社会全体で育児を見守ることが目的です。

具体的には、妊娠中期・後期に区から妊婦全員に電話して状況を把握。保健師や助産師らが全員と面接して出産や産後の相談にのり、それぞれの支援プランを立て、面接した人には1万円分の「子育て応援ギフト券」も贈ります。

産後は助産師による従来の全戸訪問に加え、「ハイリスク・要支援」親子を対象に医療職が再び面接。授乳や健康面の相談、保育施設へのショートステイを紹介します。



ひとり親家庭への支援の拡充(寡婦(寡夫)控除のみなし適用)が決定！

現在、ひとり親家庭のうち、死別・離婚等の場合には、税法上の寡婦(寡夫)控除が適用されていますが、婚姻歴のない場合は適用されていません。

区では、ひとり親家庭への支援を拡充するため、婚姻歴のないひとり親家庭への寡婦(寡夫)控除のみなし適用を実施し、ひとり親家庭の経済的負担の軽減を進めることになりました。

対象者は婚姻歴のないひとり親で児童扶養手当の受給者で、サービスの利用要件や利用料等が所得を基準として定められている事業平成28年2月から受付を開始し、4月から適用開始します。

他区に比べて大変多くの事業が対象になります。

